

最先端研究開発支援プログラムについて

参考

資料1-2

プログラムの目的

我が国の研究開発力や国際競争力の強化を図るため、研究者が研究に専念できるサポート体制、多年度にわたる研究資金の柔軟な使用等により研究者最優先の研究開発を進める。

経緯

○平成21年度補正予算において、予算2700億円を措置。（文部科学省予算として計上）

○9月4日に、総合科学技術会議が我が国を代表する30人の中心研究者と世界のトップを目指す研究課題を決定。

中心研究者・研究課題例

- ・岡野光夫 東京女子医科大学教授（細胞シートの実用化）
 - ・田中耕一 島津製作所フェロー（次世代質量分析システムの開発（2002年ノーベル化学賞受賞者））
 - ・外村 彰 日立製作所フェロー（世界最高性能の電子顕微鏡開発）
 - ・細野秀雄 東京工業大学教授（新超電導物質の探索）
 - ・山中伸弥 京都大学教授（iPS細胞再生医療）
- 他

○10月16日、補正予算見直しの一環として、予算額2700億円を1500億円に減額し、うち1000億円を9月4日決定の30課題に充当。（500億は若手・女性研究者等支援に）

今回の決定内容

○中心研究者からの研究計画（上限50億円）の再提出を行い、有識者議員が中心となって査定を実施し、内閣府政務三役と有識者議員で各課題の研究費、サポート機関等を確定。本会議として決定した上で、文部科学大臣に意見具申。

今後の予定

文部科学大臣に対する意見具申に基づき、各研究者に研究資金を配分し、早急に研究開発を開始